

1. 単元名 「水鳥が飛来する私たちのまち」

2. 単元の目標

- 湖北町に飛来する水鳥の生態、生息に関する課題について理解することができる。
(知識・技能)
- 湖北町に飛来する水鳥が、今後も継続して飛来できるようにするための方策を考えたり、表現したりすることができる。
(思考・判断・表現)
- 水鳥や地域に関する関心を高めるとともに、環境保全のために、自分たちにできることについて意欲的に考えたり、取り組んだりしようとするすることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、湖北町にある湖北野鳥センターに飛来するさまざまな水鳥たちとその環境保全について取り上げる。

本校の校区には「湖北野鳥センター」という水鳥が飛来し、観察することができる施設があり、そこでは専門員による水鳥に関する勉強会や展示紹介も行われている。また併設される琵琶湖水鳥・湿地センターでは、ラムサール条約湿地である琵琶湖について野鳥や自然だけでなく歴史や景観などをわかりやすく展示している。

湖北野鳥センターの目の前にある湖北野鳥公園には、一年を通して多くの野鳥が訪れる。特に有名なコハクチョウはユーラシア大陸北部で繁殖し、冬季は南(ヨーロッパ西部、カスピ海沿岸、朝鮮半島、中国東部、日本)へ渡り越冬する。湖北町からびわ町にかけての一带は遠浅となっており、餌となる水草の生育が他に比べて良好である。また、琵琶湖周辺は近江米で有名な田園地帯で、その落ち穂や2番穂が餌となるため、餌場としても越冬環境としても最適となり、毎年多くの飛来が確認される。

小学校の校外学習として湖北野鳥センターに行くこともあり、生徒たちにとっては、身近な場所・内容で生き物や環境について考えを深めることができる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、3つの小学校区から集まっている。そのうち1つの学区に湖北野鳥センターは位置し、小学校4年生の校外学習で湖北野鳥センターを訪れているため、身近な存在と言える。また、本校生徒会の活動方針でSDGs「住み続けられる街づくりを」をテーマとした活動を学校行事や委員会活動に取り入れており、環境保全に関する意識・関心は高い。しかしながら、物事を論理的にとらえたり、多面的・多角的にとらえたりすることに苦手意識をもつ生徒もいるため、本教材での学習を通して、物事を多面的・多角的にとらえ、さまざまな問題解決方法を見出す力を養いたい。

また、長浜や湖北町の良いところや改善したいところをあげてもらおうと、田んぼや琵琶湖といった自然を良いところととらえず、デメリットとしてとらえる生徒が多い。今回の学習を通して、自然環境や地元の良さについても改めて考えていきたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず湖北町に飛来するコハクチョウの写真や野鳥センター近くに多くのカメラマンが来て撮影している様子を提示し、湖北町に飛来したコハクチョウをはじめとする水鳥たちが湖北町に与えている影響について考える。そして、本来コハクチョウは湖北町内に生息しているのではなく、越冬のために飛来していることに気付かせる。

次に、調べ学習を行ったり、実際に湖北野鳥センターに出向いたりすることで、水鳥に関する知識や生態系について学ばせる。そのうえで、どのような方法で今の自然を守っているかについて考える。さらに、この先の将来も湖北町に水鳥達が飛来するためにはどのようなことを継続していかなければならないか、守らなければならないかについて考え、具体的な取り組みや方法について考え、自分たちにできることや社会全体として取り組んでいかないといけないことについての資料作りを行う。展望としては、小学校の野鳥センターへの校外学習と連携し、中学生が小学生に分かりやすく発表する機会を設けたり、行政に対しての意見書や農家・田んぼの経営者との連携などもはかたりしていきたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性…琵琶湖にはさまざまな動植物が生息しており、私たち人間もその水産資源の恩恵を受けている。

有限性…数十年前から観測が始められ、その間は守られてきているが、環境汚染や地球温暖化、都市開発は徐々に進みつつある。

責任性…ここに住む人たちにとって、環境保全をしていくのは使命である。

連携性…これからの環境を守っていくためには、地域全体で支えていくことが大切である。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

長期的思考

これまで鳥たちが琵琶湖にやってきていたことについて学び、今後もその環境を継続していくために自分たちにできることを考える。

コミュニケーション能力、協働的問題解決能力

学級の仲間や野鳥センターの方と意見交換・情報交換をしながら、課題解決に向かう。自分たちの思いや考えを他者に伝え、共有する。

・ 本学習を通して育てたいESDの価値観

自然環境、生態系の保全を重視する

琵琶湖やその周辺の自然環境を守っていくためには、自分たちの生活ばかりを重視して都市開発等を推し進めるのは考え直す必要がある。自然環境や生態系を保全するためにできることについて考える。

世代間の公正

これまでの環境保全の取り組みやこれからすべきことを、次世代へとつなげていく必要がある。

・ 達成が期待されるSDGs

- 1 1. 住み続けられるまちづくりを
- 1 4. 海の豊かさを守ろう
- 1 5. 陸の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①水鳥の生態、生息に関する課題について理解している。 ②学んだり、調べたりして得た知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらに関係づけながらまとめる技能を身に付けている。	①調べた内容や資料をもとに課題を見だし、今後も継続して水鳥が飛来できるようにするための方策を考えている。 ②環境保全について学んだことや考えたことをまとめたり表現したりしている。	①湖北町に飛来する水鳥たちを守り続けたいという目的意識をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 ②調べ学習を通して、水鳥や環境の実態をつかみ、自分たちにできることを模索しようとしている。 ③自分たちができることについて周りの人に発信しようとしている。

5. 単元の指導計画 (全9時間)

主な学習活動	○学習への支援	○評価
1. 野鳥センターに飛来する水鳥の写真や野鳥センターの近くで撮影をするカメラマンたちの写真を見せ、今後の活動の見通しをつかむ。 ・カメラマンたちは何を撮影しているのだろう。どんな魅力があるのだろう。 ・野鳥センターに飛来する鳥たちだ。 ・普段はどこで生活しているのだろう。	○野鳥センターやその付近の道の駅等には多くのカメラマンたちが訪れて、水鳥の様子や、水鳥と共に四季折々の琵琶湖の様子を撮影に来ている。 ○野鳥センターには毎年多くの水鳥が飛来することに注目させ、この水鳥たちが越冬のために飛来していることや、琵琶湖にある水草を食べにきていることについて知る。	ウ②

<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ鳥たちは湖北町にやってくるのだろうか。 		
<p>2. 湖北野鳥センターについてや長浜近くの琵琶湖に水鳥が多く飛来する理由について考える。(インターネットや図書館を利用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田んぼや水草があるから来るんだ。 ・越冬のために毎年来ているんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットや図書館を利用して長浜に飛来する水鳥や飛来する理由について調べる。 ○新たに出てきた疑問点等は実際に野鳥センターに行った際に聞けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ウ①② ア①②
<p>3. 実際に湖北野鳥センターに行き、情報収集・学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1993年ラムサール条約湿地になったんだね。 ・センターで観察会や学習会が開かれ、自然環境を守る手立てを学ぶ機会があるんだね。 <p>3-2 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習で生まれた疑問点を解決するようにする。 ○鳥たちを守るためにできることについて考え始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ウ①② ア①②
<p>4. これから先も水鳥たちが飛来しつづけるために、私たちができることや社会全体として取り組んでいかなければならないことについてまとめ、発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市開発ばかりではなく、田園や湿地の保全もしなければならない。 ・身近なところでは、ゴミのポイ捨てや汚水を流すのをやめよう。 ・農家や田んぼを営む方々のおかげで、鳥たちの餌が生まれているのだから、その人たちに市から補助金などを出してもらおうのはどうだろうか？ ・来てくれる人のために商品開発をするのもいいね。 <p>5 単元全体の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○水鳥たちが湖北町の湖畔に居続ける理由を含めて考えられるようにする。 ○鳥たちを守るために自分たちができるや社会全体で取り組んでいくべきことについて考え、まとめ発表をする。 ○小学生に発表したり、野鳥センターにパネル展示を行ったりできるように検討する。また、行政に対しての意見書などを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> イ①② ウ①③